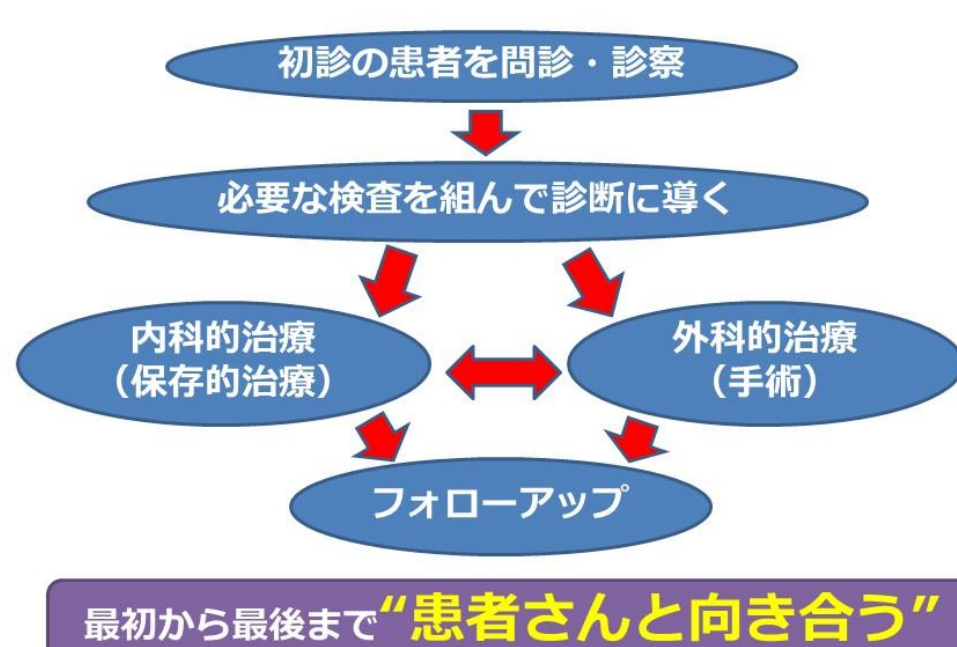


腎泌尿器外科学講座

泌尿器科医の魅力

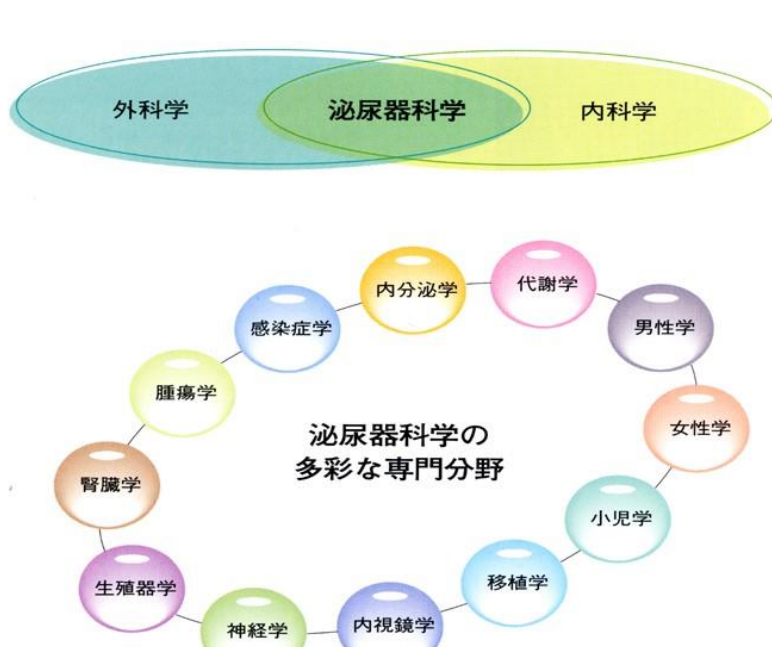


内科的診療(学術的探求)

- 腫瘍学: 各種抗癌剤治療、分子標的薬、ホルモン療法 ⇒ 入院治療の大半を占める。
- 感染症
- 神経学: 自律神経支配の臓器のなかで唯一(?) (排尿生理学) 随意的コントロールが出来る臓器 ⇒ 中枢神経と末梢神経の作用が複雑に絡み合う ⇒ 外来診療がメイン、研究の対象となりやすい

治療薬も多岐にわたる。
例) β3受容体刺激薬⇒日本の泌尿器科医が受容体発現を証明し、治療薬として認証

泌尿器科の特徴



外科的治療

- 内視鏡手術(腫瘍、結石、etc)
 - 顕微鏡手術(精索静脈瘤、精巣内精子採取)
 - 小児手術(陰嚢内手術から重度先天奇形の修復術まで)
 - 開腹手術(腎摘、膀胱全摘、前立腺全摘、腸管利用の尿路変更)
 - 腹腔鏡手術(副腎摘除、腎摘除、尿管全摘、停留精巣)
 - ロボット手術(腎部分切除、前立腺全摘)
- 対照臓器は限られているが、小児～成人、
小児～尿管内視鏡～腹腔鏡～大規模開腹手術まで
内容は幅広い

全国的に泌尿器科では
女性医師が不足しています！！

泌尿器科 来たれ女医さん

女性の泌尿器科医の少なさを嘆く声は、近年増加しています。東京女子医科大学医療センターの泌尿器科に勤務する女性医師のインタビューです。

「泌尿器科は、男性医師が多いイメージですが、女性医師も活躍しています。特に、産婦人科出身の女性医師が増えています。産婦人科出身の女性医師は、女性患者とのコミュニケーションが取りやすいというメリットがあります。」

「女性患者が増えているのには、産婦人科出身の女性医師が増えていることが大きな理由です。産婦人科出身の女性医師は、女性患者の悩みや不安を理解し、寄り添って診療できるという強みがあります。」

「産婦人科出身の女性医師は、女性患者の悩みや不安を理解し、寄り添って診療できるという強みがあります。また、産婦人科出身の女性医師は、産科経験があるため、女性患者の不安を軽減できるというメリットがあります。」

「産婦人科出身の女性医師は、産科経験があるため、女性患者の不安を軽減できるというメリットがあります。また、産婦人科出身の女性医師は、産科経験があるため、女性患者の不安を軽減できるというメリットがあります。」

泌尿器科医としての歩み

1-2年目

- 初期研修(研修希望科を自由に選択)
- 他病院にて研修
- 希望により泌尿器科の研修

★ 入局時期はいつでもOK

3-6年目

- 後期研修
- 泌尿器科医としての基礎を修練
- 大学病院、関連病院を交互に研修



★ 日本泌尿器科学会専門医取得

6年目～

- 泌尿器科全般のさらなる研修(難易度の高い手術など)を積みつつ専門分野(腫瘍、排尿、小児、結石など)を選択
- 国内、国際学会発表
- 大学院にて基礎研究
- 専門性(癌、結石など)をもった国内研修施設にて研修
- 国内、海外研究留学



日本泌尿器科学会指導医取得各種専門医取得

(腹腔鏡、癌治療、小児泌尿器、排尿機能など)

国内研修例

- ✓H医師(8-10年目) 国立がん研究センター中央病院
- ✓A医師(12-14年目) 北海道がんセンター

国内留学例

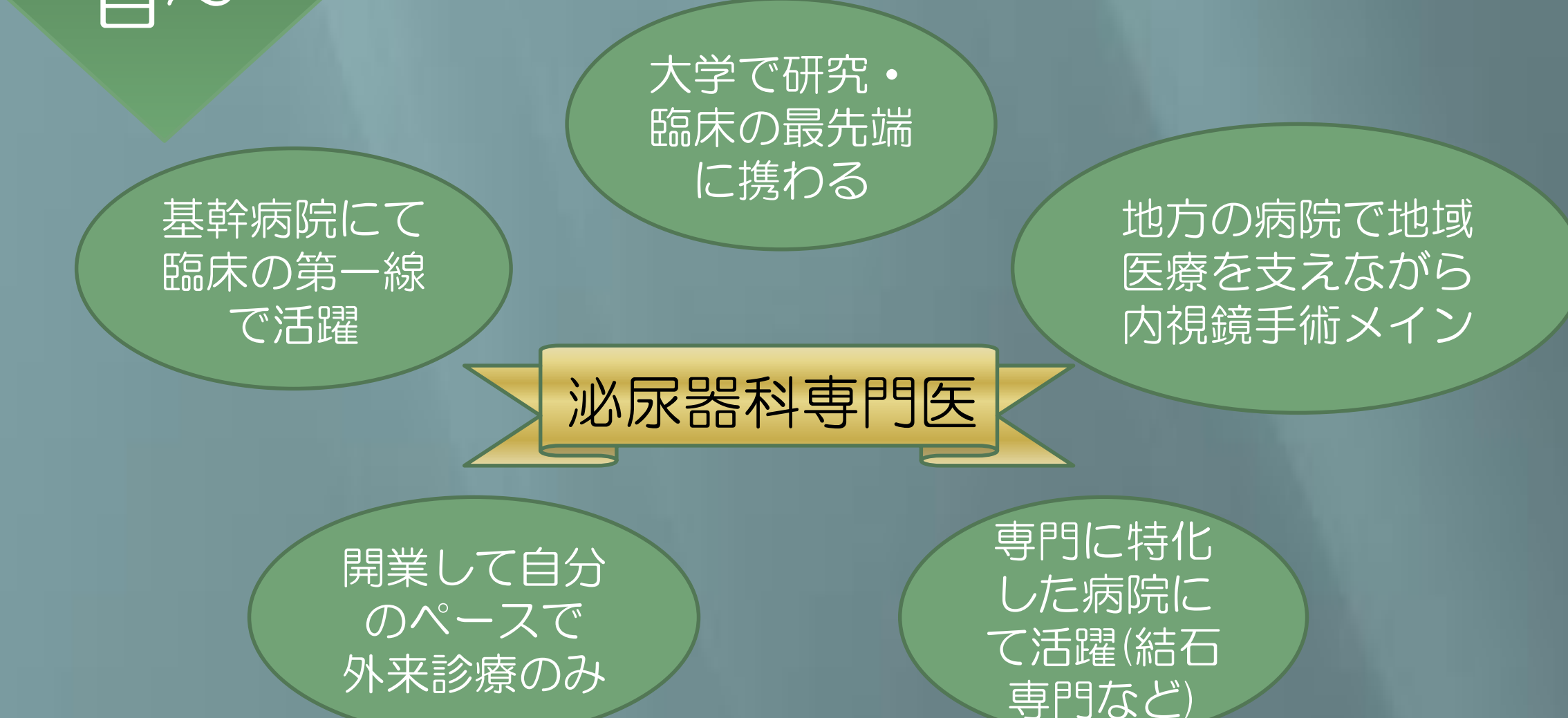
- ✓W医師(8-10年目) 生理学研究所 岡崎統合バイオサイエンスセンター

海外留学例

- ✓K医師(10-11年目) ピッツバーグ大学泌尿器科(米国)
- ✓W医師(14-15年目) ピッツバーグ大学泌尿器科(米国)

10-15年目～

- 個人の目標、ライフスタイルに合わせて複数の選択肢
- 決して個人の進路は強要されません



「女性泌尿器科医の会」という全国的な横の繋がりで支え合う組織もあります。

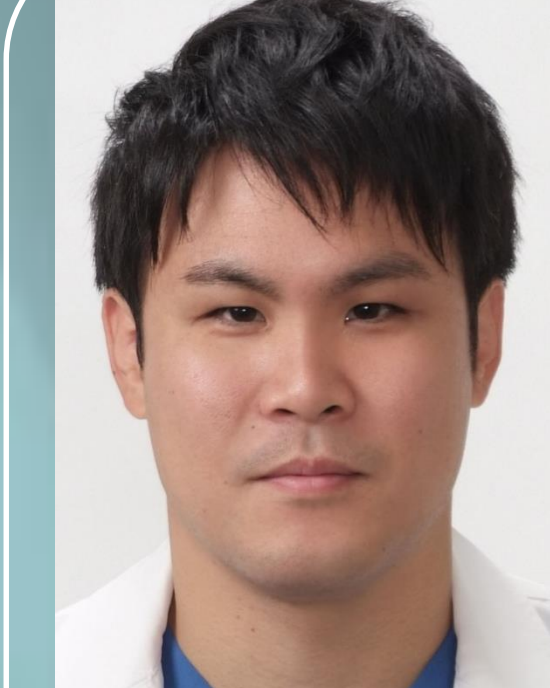


2017年5月
日本泌尿器科学会総会
女性泌尿器科医の会

当科医局員および入局予定者数名が参加しました

- 保育園のお迎えなどがある日は定時での帰宅を認めています。
- お子様の急な病気の時は、出勤時間の繰り下げや、早退を認めています。

当教室後期研修医の言葉



旭川医大→富良野協会のたすき掛け研修
皆さんはいつ入局を決めますか？

私が旭川医科大学腎泌尿器科に入局を決めたのは、6年生のアドバンス実習が終わった直後でした。もともと「診断から治療まで」「子供から大人まで」「QOL疾患から感染症から腫瘍疾患まで」といったマイナー疾患を扱う科に興味を持っていました。臨床実習を通して「内視鏡から腹腔鏡からロボットから開腹手術まで」実に多くの手術手技があることや、医局や関連病院の先生方の暖かく、明るい雰囲気にならなれてこの科の門を叩くことに決めました。

初期研修の2年間は大学病院を基幹としながら市中病院でも研修する、いわゆるたすき掛けの制度を活用しました。1年目は大学で内科、麻酔科、救急科をローテーションし、最先端の医療に触れながら医師としての基礎を学ばせていただきました。2年目は医局の関連である富良野協会の病院を選択して、泌尿器科、外科、小児科をローテーションしました。入局先を選ぶ時期や選び方について悩んでいる学生をよく目にします。学生のうちに入局を決めることのメリットは、決めたその科を意欲に置きながら目的意識を持って研修生活を送れることだと思います。自分の場合は、関係のある腎臓内科、術後の消化器管理や化学療法について学ぶために消化器内科、そして腰麻麻酔の手技や救急外来で絶対に遭遇する脳卒中について学ぶために神経内科を選択しました。

また2年目では、外科の側面の強い泌尿器科において必須の手技を多く吸収するために、研修医が少ない市中病院で外科、泌尿器科を選択しました。医師として外すことのできない、一般的な小児疾患の診療に携われたことも小児泌尿器科を扱う上で自分の武器の一つになっています。(小児の採血、ルート確保等)。富良野協会の病院は医局の関連ということもあり暖かく見守っていただけました。また、大学、富良野問わず他科研修先の先生方も「菊地はUroだからこれを覚えてほしい」と的を絞った指導をしてくださりました。

もちろん、その科の実際や自分に合っているかどうかは動いてみないとわからないという方も多いと思います。しかし、初期研修終了時も同じ悩みを抱えている同期を目にしました。漫然と研修生活を送るより、はっきりと目的意識をもって研修生活に臨めるよう、少なくともどんな科になるのか決めておくことをお勧めします。科を決めることができれば研修先、入局先は自ずと見えてくるはずです。悩める学生の皆さん！いつでも相談に乗ります。(時にはお酒を交えて)病棟実習で見かけたときは気軽に声をかけてください。

いつ決めるの? 今でしょ!!

どこにするの? Uroでしょ!!!



市内稚内病院での研修

皆さん、こんにちは！
卒業3年目、泌尿器科1年目の宮内琴菜と申します。当科の魅力伝える原稿を、とのことでしたので自分自身が入局を決めた理由や私の考える泌尿器科の魅力などを紹介します。

【自分自身の事】
道東道北卒で入学かつ北海道からの医師養成確保研修資金の貸し付けを受けています。稚内市立病院で初期研修、泌尿器科常勤医不在の地域で泌尿器科医がどれほど需要があるか実感しました。現在は富良野協会の病院で上司3人と計4人で勤務しています。

【入局を決めた理由】
医学英語で泌尿器科を選択したり、ポリクリで実習したりした時にとにかく手術が楽しく、先生方の雰囲気もとてもよかったことです。旭川だけでなく地方にも指導医がいる関連病院があり、奨学金関係の義務を果たしながら最短で専門医取得可能なことも大きな理由でした。育児、介護、自分の病気などで今よりも体力や時間が少なくなっても柔軟な働き方ができそうと思いました。

【泌尿器科の魅力】
・幅広い診療
診断から治療まで一貫して行えます。患者さんは赤ちゃんから年配の方まで、男性も女性も対象です。開腹手術、腹腔鏡手術などの大きな手術から内視鏡手術や前立腺生検などの小手術まで手術の大きさも様々です。泌尿器科1年目から執刀できる手術もたくさんあります。外来診療・透析治療など内科的な要素も扱います

・選べる働き方
泌尿器科は決して暇な科、楽な科ではありませんが、様々な働き方ができると思います。泌尿器科医としてのスキルを身につければライフスタイルに合わせて、バリバリ手術をするのも外来のみを担当するのも自分次第です。

【実際に働いてみて】
優しい上司やスタッフに見守っていただきながらとても楽しく働いています。まだ2ヵ月ですが前立腺生検やTUL(尿管鏡を用いて結石を割る手術)、腎摘のアプローチなどさせていただき、できることが少しずつ増えていくのが実感できてすごく充実感があります。市中病院で働いていると日々の診療に追われてしまうこともありますが、当科では地方会などの学会や大学でのカンファレンスに参加するなど知識を得る機会がたくさんあります。これは医局に入る大きなメリットだと思います。本当にこの科に決めてよかったです。ぜひみなさんまずは実習や研修で泌尿器科を選択してみてください！
そしてぜひ富良野協会の病院にも来て下さい！外来を見ながら、手術をしながら、そしておいしい日本酒を飲みながら(もちろん強要はしません！)私と上司はかまわず飲みますか！泌尿器科の魅力について直接お伝えします！

連絡先 医局長 玉木 まで。
E-mail: gtamajp@asahikawa-med.ac.jp
Facebook: <https://www.facebook.com/asahikawaika.urology/>
随時相談受け付けています。気軽にメールください。直接腎泌尿器外科医局(総合研究棟8F)に来てもらっても構いません。

